

常任委員会の審議から

総務企画委員会

青少年の入れ墨防止へ全庁的な取り組みを 関係部局との検討会を発足

問 タトゥを含む入れ墨は青少年へ広がりがつつあり、その悪影響が懸念される。入れ墨関係図書が有害指定されたことは評価するが、今後も高校や小中学校での積極的な取り組みは不可欠。全庁的に取り組むべきで、検討会の設置など、早急な対応を願いたい。

答 教育庁では、冬期における生徒指導等に関する通知において、入れ墨の防止を児童生徒に十分指導するよう、県立高校や市町村教育委員会などに要請している。関係部局との検討会を早速発足させ、年度内に成果を出せるよう検討していきたい。

問 県の広報部門にPRの専門家を導入する考えはあるか。

答 他県の例を参考に、現在検討を進めているところである。広報宣伝のプロとともにメディアへの広報活動を行うことは大変有意義であり、観光客の誘致や物産の販路拡大など、県民生活の向上に直接結びつくような効果的なPRの実現に向け検討したい。

問 茨城空港旅客ターミナルビルのテナント出店業者と早急に本契約すべきではないか。

答 現時点では「内定」であり、現在の就航状況を踏まえた開業時の品揃えなどを開発



12月11日に県庁内で開かれた「青少年の入れ墨防止にかかる検討会」

公社と出店業者との間で調整中。そのほかレンタカー、宅配便、コインロッカーについても一月の引き渡し時まで契約するよう指導していく。(ほかに、いばらき就職・生活総合支援センターの現状や県立カシマサッカースタジアムの命名権導入なども質問)

問 今回の委員会では、これまで審査を進めてきた「茨城空港開港に向けた諸対応」に關し、就航対策や施設整備、空港のアクセス整備、利用促進対策などの取り組みべき施策について、県執行部に提言しました。

環境商工委員会

雇用問題の課題解決は 資格取得もできる 離転職者訓練などを実施

問 雇用問題は現下の最大の課題。様々な事業によって雇用に結びつけていく必要があるが、その取り組みについて伺う。

答 比較的求人が多い介護やIT、警備などの分野での資格取得もできる離転職者訓練の実施など、雇用につながる施策を進めていく。

問 技能五輪・アピリンピックいばらき大会二〇〇九が開催されたが、若年技能者の育成の観点から大会の成果をどのように継承していくのか。

答 今後は技能五輪メダリスト等派遣による出前講座や技能五輪等選手育成支援を実施していきたいと考えている。また、多くの機会を通じて、ものづくり人材の育成に努めるなど、これまでの取り組みが一過性とならないようしていきたい。

問 二酸化炭素の排出量を削減するため家庭などで創意工夫しながら省エネに取り組むエコチャレンジ事業には、五千五百七十世帯の参加があったが、その成果と事業の継続は。

答 夏場の電気使用量削減の実績を年間当た



職業訓練の様子

りに推計すると、百三十五世帯の家庭における電気や車などからの全ての二酸化炭素の排出量をゼロにした計算になる。今後は、企業の参加も視野に入れた取り組みを検討している。

(ほかに、霞ヶ浦の浄化対策、高校卒業予定者の就職対策なども質問)

問 今回の委員会では、「大規模災害等に対する危機管理」と「中小企業の活性化と雇用対策」について審査を行い、地域防災力向上のための啓発事業の強化、中小企業の経営革新の取組みを促進するための施策展開などを県執行部に提言しました。

保健福祉委員会

特別養護老人ホーム整備の方針は 入所者の立場に立ち 整備していく

問 特別養護老人ホームの整備について、ユニット型を基本に進めているが、入所者が多床室、ユニット型のどちらでも選択できるようにしていくべきでは。

答 特別養護老人ホームの整備については、「第四期いばらき高齢者プラン二十一」に基づき整備している。ユニット型はプライバシー保護などのメリットがある反面、コストが高いという問題がある。利用者の立場に立ち整備していきたい。

問 高コスト体質だった県立病院の経営コスト削減に向けて、これまでどのような取り組みをしてきたのか。

答 経営改善への取り組みとして、平成十八年度から職員の給与カットを実施している。また、任用には一部能力評価を取り入れた。

問 立地企業が地域間競争に勝ち抜くため、工業用水を値下げする可能性はあるか伺う。

答 鹿島・県西・県南の工業用水については、平成二十六年に借入金返済の山を越す見



利用者の立場に立った整備が期待される特別養護老人ホーム

込みであることから、値下げについて前倒しできないか検討している。

(ほかに、こども福祉医療センターの建て替え計画、ドクターヘリ導入の進捗状況なども質問)

問 今回の委員会では、これまで「医療提供体制の充実」をテーマとして、医療機関の連携推進や、周産期・小児医療、救急医療体制の充実強化策などについて検討を行ってきた成果として、地域の実情に応じた医療提供体制づくりや、市町村や医療機関など関係機関との連携方策について、県執行部に提言しました。

農林水産委員会

飼料用米の鶏へのエサ使用について
色の違いを利用し
積極的にPRしていく

問 耕作放棄地解消等のため作付け拡大する飼料用米の利用で、鶏のエサとする場合、品質は良いが卵の黄身が通常より白くなり、消費者が敬遠しがちになるが、その対策は。

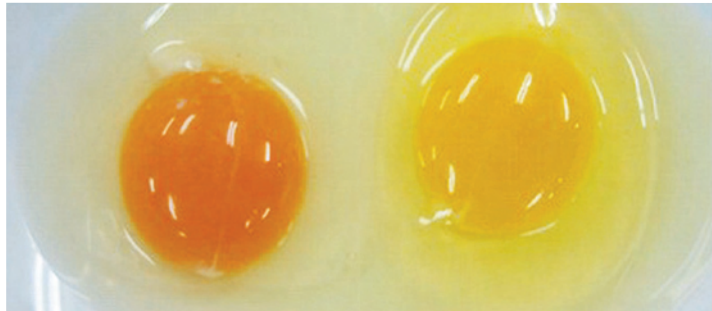
答 卵の黄色はエサのトウモロコシの成分によるため、エサの配合で発色を良くすることも可能だが、逆に色の違いを利用し、飼料用米のエサ使用をPRしたい。

問 県議会が実施した県民アンケートで、森林湖沼環境税を知らないとの回答が47%もあったが、県は今までのような広報をしてきたのか、また、同税を個人所有の山林の間伐に使用する理由は。

答 広報紙やホームページ、イベントなどで周知を図ってきたが、残念な結果となった。間伐は、森林の持つ公益的機能*を守るため必要で、緊急に間伐を行う必要性のある森林に対し、国の補助金に同税を上乗せして実施している。

問 県北地域の山間部で、市町村道とは別に農道整備が計画されているが、農道とはどのような道路なのか。また、今後の整備の見通しは。

答 農道は農産物の集出荷などのため土地改良法に基づいて、地元の申請により国の承認を受けて整備しているもの。地元の要望はあるが事業仕分けで廃止とされており、今後の対応に苦慮している。



食料自給率の向上にもなる国産飼料用米で育てたレモンイエローの卵(右) 写真提供: ひたち野農業協同組合

(ほかに、東京都中央市場における青果物の取扱高、エチゼンクラゲの被害防止対策についてなども質問)

今回の委員会では、これまで「耕作放棄地解消等を中心とした農業・農村の再生」をテーマに審査を進めてきた結果として、市町村対策協議会設置の推進、担い手育成、農地集積、生産販売対策などを推進するよう、県執行部に提言しました。

土木委員会

二日にわたり審議した工事請負契約の
工事施工にあたっての対応は
現場監督や工事検査について
厳重に管理していく

問 二日にわたり審議した(仮称)朝日トンネルなどの工事請負契約の相手方に詐欺容疑で家宅捜索を受けた大手ゼネコンが含まれているが、容疑段階での指名停止は望ましくないとする国の指針や、知事あてにその企業の役員から容疑事実を否定する釈明書が提出されたといった説明があった。本契約に至った場合には、県の厳正な対応が必要と考えるが、今後の指導や検査体制は。

答 社内コンプライアンス(法令順守)の徹底について、指導を行った。また、本工事は低入札価格調査の対象工事*であることから、現場監督や工事の検査を、通常の1・5(二倍行)という指針に基づき、厳重な管理を行っていく。

問 国の概算要求が示されたが、厳しい予算となっている。来年度予算を編成する中で、道路整備の重点化を図る必要があるが、どう取り組むのか。

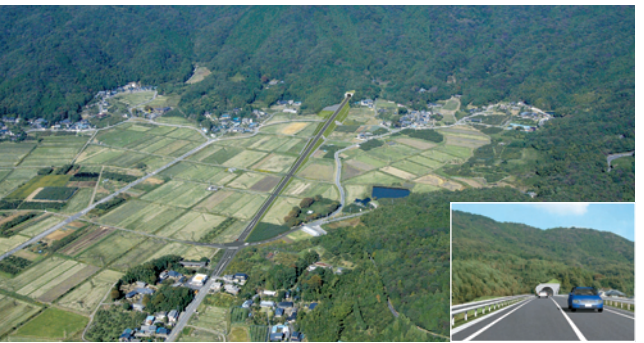
答 県では、産業振興のための広域的な幹線道路網の整備と生活を支える道路の整備を二本の柱として、取り組んでいくこととしている。

問 橋の老朽化が進んでいる。架替えには多額の費用がかかるため、計画的な架替えや、橋の寿命を延ばす修繕が必要

である。現在策定中の橋りょう長寿命化修繕計画の進捗は。

答 平成十九、二十年度に橋りょうの点検を実施。この点検結果に基づき、今年三月には計画をまとめる予定である。(ほかに、交通事故多発交差点における事故原因と今後の対策、都市計画マスタープラン見直しの考え方なども質問)

問 今回の委員会では、使う側の視点にたつて、必要な社会資本とは何か、いかに効果的・効果的に整備すべきかといった将来の社会資本整備の方向性を取り組むべき施策及び今後の進め方について、県執行部に提言しました。



(仮称)朝日トンネル完成予想図(土浦市側から臨む)

文教治安委員会

小学生の自転車交通事故防止対策は
安全指導や
通学路の点検などを実施

問 昨年十月下旬に茨城町で小学生が自転車通学時に死亡する事故が発生した。その後の事故防止の取り組み状況を伺う。

答 県警察では、町や地元住民に交通流量を抑制するための対策案を提示する一方、知事部局や教育庁、道路管理者と協議し、歩道の整備や通学方法の代替などを検討している。また、小学生への自転車通学の安全指導や通学路の安全点検を実施している。

問 来年度から試行的に配置する副校長の役割がわかりにくい。その仕事の内容を明確にしたいがどうか。

答 副校長は、各学校が抱える学力や生徒指導などの特定の課題も担うことになるが、幅広く校長を補佐することがその役割である。

問 来年度から県立高校に医学部進学コースを設定すると言いますが、どのように進めているのか。また、詳細な情報の早期公表も求めたい。

答 県内五地域ごとに、進学コース設定校を公募中で、十二月までに選定する予定である。また、県北や県西に設置する中高一貫校に、サイエンス科(仮称)などを検討して



通学路の安全点検の様子

いる。早期公表にも努めたい。(ほかに、本県のスポーツ振興と競技力向上対策の充実、茨城空港開港に伴う警備の課題・対応なども質問)

今回の委員会では、これまで「生きる力」を大きく育てる教育の充実と「地域警察力の強化」をテーマに審査を進めてきた成果として、学校と家庭が連携し自発的な学習習慣を身につけさせることや、教育環境の整備・充実を図るため国に働きかけること、警察機能の効率化や現場執行力の強化、防犯ボランティア団体の活動への多角的な支援などを推進するよう、県執行部に提言しました。

ことば ※【森林の持つ公益的機能】…水資源の確保(緑のダム)、土砂流出防止などの災害防止、CO2吸収による地球温暖化防止など。
※【低入札価格調査の対象工事】…落札予定者の入札金額が、ダンピング防止のために導入している基準価格を下回り、施工内容等の調査対象となった工事。